

要指示

貯法	室温保存
有効期間	3年(最終有効年月はバイアル又は外箱に記載)
規制区分	指定医薬品、要指示医薬品、使用規制該当医薬品

動物用医薬品

結晶ペニシリンG明治

注射用ベンジルペニシリンカリウム

CRYSTALLINE PENICILLIN G POTASSIUM MEIJI FOR VETERINARY USE

結晶ペニシリンG明治は、ベンジルペニシリンカリウムを有効成分とする静注用製剤です。

成分・分量

1 バイアル中

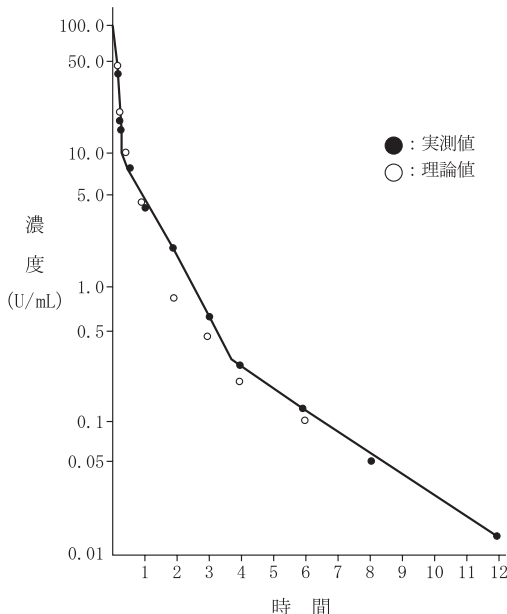
有効成分	日局ベンジルペニシリンカリウム	300万単位
------	-----------------	--------

特長

ベンジルペニシリンのカリウム塩は水溶性が高く静注により高い血中濃度、組織内濃度が得られ、すみやかに排泄されます。このため結晶ペニシリンG明治は畜産物への残留期間が短かく安全性の高い医薬品です。

牛に静脈内注射後の血中濃度は下図のとおりです。

ベンジルペニシリンカリウムを牛に、
5000U/kg静脈内注射後の実測値および理論値について (n=2)



効能・効果

有効菌種

本剤感性の次の菌種：ブドウ球菌、レンサ球菌

適応症

牛：乳房炎、肺炎、産褥熱

用法・用量

本剤は用時、注射用水又は生理食塩液を用い、20～30mLに溶解する。

1日1～2回体重1kg当たり、ベンジルペニシリンとして下記の量を静脈内に注射する。

牛：2,000～5,000単位

溶解方法：本剤1バイアルに18.6mLの溶解液を加えると20mLとなり15万単位/mLの注射液が調製できます。

使用上の注意

【一般的注意】

- (1) 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方せん・指示により使用すること。
- (2) 本剤は効能・効果において定められた適応症の治療にのみ使用すること。
- (3) 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- (4) 本剤の使用に当たっては、適応症の治療上必要な最小限の期間の投与に止めることとし、4日以上連続投与を避けること。
- (5) 本剤は、「使用基準」の定めるところにより使用すること。

【使用者に対する注意】

- (1) 誤って人に注射した場合は、直ちに医師の診察を受けること。
- (2) 本剤の成分またはペニシリン系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある人は使用を避けるか慎重に使用すること。

【牛に対する注意】

1 制限事項

本剤はβ-ラクタム系の抗生物質であるので、同系薬（ペニシリン等）に対する過敏症の有無を調べ、陽性動物や既往歴のある動物には使用しないこと。

2 副作用

- (1) 副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。
- (2) 本剤は過敏症反応（ショック、発熱、発疹、蕁麻疹等）を起こすことがある。過敏症反応があらわれた場合は、直ちに投与を中止し、すぐに獣医師にかかること。
強心剤、気管拡張剤、昇圧剤、抗ヒスタミン剤やコーチゾン等の投与及び輸液、人工呼吸等、症状に応じた適切な処置を行うこと。

3 適用上の注意

- (1) 本剤はペニシリナーゼ産生菌には通常奏効しないので、この場合は他の薬剤を使用すること。
- (2) 本剤には他の医薬品等を加えないこと。
- (3) 本剤は静脈内注射にのみ使用し、血管内に確実に投与すること。
- (4) 注射針を刺入し、血液の流入を確認後、針先を動かさないように配慮し、できるだけ注入速度を遅く注射すること。

【取扱い上の注意】

- (1) 本剤は用時調製し、速やかに使用すること。
- (2) 使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。

【保管上の注意】

小児の手の届かないところに保管すること。

注意－獣医師等の処方せん・指示により使用すること。

注意：本剤は薬事法第83条の4の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた動物用医薬品ですので、牛について上記の用法及び用量並びに次の使用禁止期間を遵守して下さい。

牛：食用に供するためにと殺する前3日間又は食用に供するために搾乳する前48時間

包 装

動物用医薬品 結晶ペニシリンG明治
1 バイアル中 300万単位×10本入

製造販売元 **Meiji Seika ファルマ株式会社**
東京都中央区京橋 2 - 4 - 16

2010年12月改訂 R2